



RULE BOOK 2019

1 ジャッジ基準

・ Judging Criteria

Surfers must perform to the WSL judging key elements to maximize their scoring potential. Judges analyze the following major elements when scoring waves.

- a) Commitment and degree of difficulty
- b) Innovative and progressive manoeuvres
- c) Combination of major manoeuvres
- d) Variety of manoeuvres
- e) Speed, power and flow

NOTE: It's important to note that the emphasis of certain elements is contingent upon the location and the conditions on the day, as well as changes of

conditions during the day.

- ・ **ジャッジ基準(ショートボード)**

サーファーが高得点を獲得するためには“WSL Judging Key Elements”に従った演技をしなくてはならない。ジャッジは次にあげる主要な要素を考慮し採点する。

- a) 積極性および難易度の高さ
- b) マニューバーの革新性と進歩性
- c) メジャーマニューバーの結合性
- d) マニューバーの種類の豊かさ
- e) スピード、パワーそして流れ

注意: 開催地やその日の状況、同様に 1 日を通して変化するコンディションの中で、これらの要素の何に重点を置くかは極めて重要となる。

- ・ **Judging Criteria for Longboard**

A surfer must perform to the WSL Judging panel key elements to maximize their scoring potential. Judges analyse the following major elements when scoring waves however it is important to note that the emphasis of certain elements is contingent upon the conditions during the day.

© Copyright 2012 Association of Surfing Professionals (ASP) International Limited Page 36

- a) Commitment and degree of difficulty
- b) Variety of Traditional and Modern Manoeuvres
- c) Use of foot work on the Board
- d) Speed, Power, Style and Flow
- e) Combination of major manoeuvres

NOTE: The following scale may be used to describe a Ride that is scored: 0–1.9 = Poor; 2.0–3.9 = Fair; 4.0–5.9 = Average; 6.0–7.9 = Good; 8.0–10.0 = Excellent.

- ・ **ロングボード・ジャッジ基準**

サーファーが高得点を獲得するためには下記の“WSL Judging Key Elements”に従った演技をしなくてはならない。ジャッジは次にあげる主要な要素を考慮し採点する。しかし1日を通したコンディションによりこれらの要素の何に重点を置くかは極めて重要となる。

- a) 積極性および難易度の高さ
- b) トラディショナルとモダンマニューバーの多様性
- c) ボード上での足の動かし方
- d) スピード、パワー、スタイルそして流れ
- e) メジャーマニューバーの結合性

- ・ **ロングボードに関する規定**

- a) ボードの長さはデッキ上で最低9フィート、幅の合計が47インチ以上の大きさをなければならない。幅の合計とは、最大幅とテールから12インチ、ノーズから12インチの各幅の合計である。
- b) トラディショナルなマリブシェイプのロングボードを使用し、マルチフィンやチャンネルがあってもかまわない。

2. インターフェアランスとプライオリティー・ルール

- ・ **インターフェアランス・ルール**

- a) 波のインサイドポジションを獲得したサーファーは、その波を乗り終えるまで絶対的な優先権を得ることになる。このとき対戦相手のサーファーが優先権を持つサーファーの得点を妨げたと大多数のジャッジが判断した時は、インターフェアランスがコールされる。
- b) 優先権を有するサーファーの前に他の選手が乗ってしまった場合でも、優先権を有するサーファーの得点を妨げる以前にキックアウト等で直ちに演技を中止すればインターフェアランスとは見なされない。これには過度なハスリング、レッグロープを引っ張る行為、セクションのブレイクダウンも含まれる。
- c) マキシマムウェイブを乗り終えたサーファーが海の中に留まり、次の行為を行った場合インターフェアアが科せられる。
 - 1) 明らかに他のサーファーの乗る波を奪った場合。
 - 2) パドリングやポジショニングなどで他のサーファーを妨害した場合。

- ・ **4メン、3メンそしてプライオリティー無しのワン・オン・ワン制における優先権**

波の所有権と優先権はコンテスト会場の状況により決定され、以下のカテゴリーに分類される。しかし、基本的にはジャッジの責任でその波のライト、レフトのどちらが優勢かを判断し、それを基準にどちらの選手がインサイドポジションを獲得したかを決定する。どちらのサーファーが先に立ったかでは決定されない。

例外： もしテイクオフされる最初のポイントでライトかレフトのどちらの波が優勢か定まらない場合は、先にその波に乗り、明確なターンを決めた選手にその波の優先権がヘッドジャッジにより与えられる。

- a) **ポイントブレイク**

波が一方向にしかブレイクしない場合は、インサイドにいるサーファーに絶対的な優先権が与えられる。

- b) **リーフまたはビーチブレイク（ワンピークシチュエーション）**

ライトとレフト両方にブレイクする明確なピークが1つある時で、テイクオフされる最初のポイントでライトかレフトのどちらの波が優勢か定まらない場合は、先にその波に乗り、明確なターンを決めた選手にその波の優先権が与えられる。次のサーファーはペナルティーを受けずに反対方向へライディングすることができるが、先に優先権を得たサーファーの妨害となつてはいけない。(反対側のピークを得るために優先権を持つサーファーの前を横切つてはならないが、これを得点の妨げとならずに行つたと大多数のジャッジが判断した場合は例外となる)

c) リーフまたはビーチブレイク (マルチピークシチュエーション)

不規則なピークがいくつもあり、定まらない場合には各波により優先権が異なる。

- 1) 1つのうねりで、たがいに十分離れたところにある2つのピークが、結局は何処かのポイントで1つに交わってしまう場合がある。2人のサーファーが別々のピークの各インサイドポジションにいた場合、最初にテイクオフした選手にその波の所有権が与えられ、続いてテイクオフしたサーファーは最初のサーファーを妨げる前にカットバックやキックアウト等で進路を譲らなくてはならない。
- 2) 2人のサーファーが別々のピークから同時にテイクオフした場合
 - i) 両サーファーがカットバックやキックアウト等で進路を譲れば妨害が無いため、双方にペナルティーを科さない。
 - ii) 両サーファーが衝突または相手に対し妨害をした場合、ジャッジはその際、攻撃を仕掛けた一方または両方のサーファーに対してペナルティーを科す。
 - iii) いずれのサーファーもカットバックやキックアウト等で進路を譲らない場合には両サーファーに対してペナルティーが科される事になり、ダブルインターフェアランスがコールされる。両サーファーのその波のスコアは0となり、セカンドベストスコアは半分となる。

・ **プライオリティー付きのワン・オン・ワン制における優先権**

- a) ワン・オン・ワンの場合、プライオリティー・ディスクシステムにより波の所有権が決定される。プライオリティーを得たサーファーは、波のどちらの方向へ進むことを選択しても絶対的な優先権を持つ。もう一方のサーファーはどちらの方向へもパドルまたはライディングし、スコアを得ることができるが、プライオリティーを持ったサーファーの得点を妨げてはならない。
- b) もしプライオリティーを持たないサーファーが上記のルールに従わなかった場合、プライオリティーインターフェアランスがコールされる。
- c) もしインターフェアランス・ペナルティーを自ら招いた場合は、そのサーファーはプライオリティーを喪失する。

- ・ **優先権基準**

優先基準の選択はヘッド・ジャッジ、ツアー・ジャッジらの大多数の意見で決定する。

- ・ **プライオリティー・ルール**

- ワン・オン・ワンヒートではプライオリティーの適用が義務づけられている。
- ヘッド・ジャッジはプライオリティーを表すために選手らのゼッケンの色に応じてプライオリティー・ディスクを使用する。
- プライオリティー・ディスクはジャッジ・ブースの横端に設置されていなければならない
- ブイは適切に、波がブレイクするより少し沖に設置され、選手は優先権を獲得するためにそのブイをパドルングにより回る。
- ウェイブ・プライオリティーは選手が波に乗った時、または波に乗ろうとしてパドルングしていたが乗り損ねたと同時に喪失する。
- ヒート開始時に、オープニング・ウェイブが演技された後は、もう一方がヒート開始前に波に乗っていなければ、自動的に次の波の優先権が与えられる。ヒート開始前にサーファーが波に乗るような事が生じた場合には、その演技はカウントされず、もう一方のサーファーが自動的にファースト・プライオリティーを獲得する。プライオリティーはヘッド・ジャッジにより権利を得たサーファーのゼッケンと同色のディスクを掲げる事により表示される。どちらのサーファーもプライオリティーを有さない場合には、ディスクは掲げられず、標準のインターフェアランス・ルールにより、優先権が決定される。
- サーファーは、パドルし始めたが波に乗り損ねただけではセカンド・プライオリティーを喪失することは無いが、テイクオフしようとしてサーファーの手がレールを離れた場合には、そのサーファーはセカンド・プライオリティーを喪失する。
- インサイドにいるサーファーがセカンド・プライオリティーを有し、もう一方のサーファーがパドルし始めたが波に乗らなかった場合には、インサイドにいるサーファーは自動的にファースト・プライオリティーを獲得する。その結果、そのサーファーが同様の行為を行った場合には、ファースト・プライオリティーを喪失する事になる。つまりそのときはプライオリティーディスクを変えるための時間は無かったが、一本の波だけで両サーファーともプライオリティーを喪失する事になる。
- プライオリティーを有するサーファーは、他のサーファーが波に乗ろうとする場合に、故意に妨害するためにそのサーファーの前をパドルしてはならない。これに違反した場合には、プライオリティーを喪失する。また、サーファーがテイクオフゾーンで他のサーファーが波に乗ろうとしたのを妨害したとヘッド・ジャッジが見なしたときもプライオリティーを失う。
- 大多数のジャッジが現場を目撃していない場合のみ、ヘッド・ジャッジは単独でプラ

イオリティー・インターフェアランスをコールすることができる。

- k) アロケーション・プライオリティーはプライマリー・テイクオフ・ゾーンに最初に到達したサーファーに与えられる。もし 2 人のサーファーが同時にラインナップ・ポジションに到達したと思われる場合には、その前にプライオリティーを有していなかったサーファーに権利が与えられる。アロケーション・プライオリティーでは、各サーファーが次々と変わるプライオリティー・ディスクを確認する必要がある。ワン・オン・ワン制の試合では、プライオリティー・ルールが適用されない事は絶対にない。
- l) もし、プライオリティー・ジャッジにより、どちらが先にブイを回ったのかの判断が不可能な場合は、そのヒートのサーファーのどちらがプライオリティーを持っているかを互いに同意しない限りプライオリティーは与えられない。もし双方が同意しないときは、プライオリティーは与えられず、そして 1 本目の波が乗られた後の次の波はオートマチック的にもう 1 人のサーファーのものとなる。
- m) プライオリティーが無い場合は、インターフェアランス・ルールに基づき、波の所有権が決定される。2 人のサーファーはお互いを妨害しあわなければ、同じ波でも別々に演技することができる。
- n) どのような状況においても、もしプライオリティー・システムが機能していない事により、議論が起きた場合は、ヘッドジャッジ、コンテスト・ディレクター、選手代表により仲裁される。

・ スネーキング

- a) テイクオフする事が出来る最初のポイントのインサイドで波の所有権を確立した選手にその波でのライディングを継続する権利がある。これは他の選手がより奥から続いてテイクオフしたとしても変わることは無い。ジャッジは 1 番目のサーファーについて、たとえもう一方のサーファーの前にいたとしてもその波の優先権を有しているため、ペナルティーを科さない。
- b) 後続のサーファーが優先権を持つサーファーに対し妨害をせずに演技した場合は、ジャッジはそのサーファーにペナルティーを科さず、両方のサーファーの演技について得点を与える。
- c) ジャッジの判断により、後続のサーファー(スネーキングしたサーファー)が優先権を有するサーファーにプルアウトさせたり、その波に乗せなかったりした場合には、後続のサーファーに対し、たとえペナルティーが科せられた時点で優先権を持つサーファーの後方に移動していたとしても、インターフェアアがコールされる。
- d) 上記のケースは、複数人数制のヒートまたはプライオリティー無しのワン・オン・ワン制の場合のみ適用される。

・ **パドリング・インターフェアランス**

- a) 4 ヒートまたはプライオリティー無しの一・オン・ワン制の場合、インサイド・ポジションを獲得したサーファーが乗ろうとしている波に過度なパドリングによる妨害をしてはならない。
- b) 以下の場合が生じた時は、パドリング・インターフェアランスがコールされる。
 - 1) 違反サーファーがインサイドにいるサーファーが波に乗ろうとパドリングしている最中に接触やコースを変えさせ、得点につながる演技を妨げた時。
 - 2) 違反サーファーが明らかに、通常では行ってはならないインサイドにいるサーファーの前でセクションを崩し、得点を妨げた時。
- c) サーファーが沖に向かうためにパドリング中、沖へ出られずにその途中に居た場合で、その行為により衝突などが起こった時には、これが不慮の出来事かインターフェアであるかは、大多数のジャッジの判断により決定される。

・ **インターフェアランス・ペナルティー**

- a) 大多数のジャッジがインターフェアと認めた行為については、それがライディング・インターフェアランスであろうとパドリング・インターフェアランスであろうと、その演技については最終的に得点はゼロとなる。
- b) サーファーが波をキャッチせずに起こる、純粋なパドリング・インターフェアランスが適用されると、スコアされる波の数は1本減ることになる。
- c) もしもそのサーファーがカウントされる波の最低本数を満たしておらず、インターフェアが科せられた場合には、乗った本数の波より1本少ない本数について得点が与えられる。(つまり、ベスト4ウェーブがカウントされるヒートで3本しか演技しておらず、インターフェアが科せられた場合には、2本の波についてのみ得点が与えられる)
- d) ここで言う大多数のジャッジとは、5人または4人のジャッジのうち、3人以上のジャッジがインターフェアをコールする事を意味する。
- e) インターフェアはジャッジ・シートでは△で表現し、その△から矢印がインターフェアを受けたサーファーのスコアに対して描かれる。
 - 1) スコアが△で囲まれている時はライディング中にインターフェアがあったことを表す。
 - 2) スコアの上に△がある場合は、パドリング中にインターフェアを犯してからライディングしたことを表す。
 - 3) △がスコアの間にある時はパドリング・インターフェアを表す。
- f) 一方のサーファーにインターフェアランスが記録されているようなケースで同点となった場合のカウント・バックでは、すでに1本の波が差し引かれているため、インターフェアのペナルティーを受けている選手が勝者となる。

- g) ベスト2 ウェイブ以下の場合、インターフェアを犯したサーファーのペナルティーは、ノン・プライオリティーで起こった時のみ 2 番目のベスト・ウェイブスコアを 50%としてカウントする。大多数のジャッジによってインターフェアはコールされ、その演技については最終的に得点はゼロとなる。同様に、もし、このサーファーが同じヒートにおいてもう1つのインターフェアランス・ペナルティーを受けた場合は、彼のベスト・スコアは半分となる。もしインターフェアをしたサーファーが他に1本しか波に乗っていない場合はそのスコアが半分になる。(インターフェアを起こした波のスコアはゼロなので他の波のスコアが半分となる)
- h) ヘッド・ジャッジまたはイベント・レフリーを含めた場合は、5人中3人のジャッジ・シートでインターフェアが決定される。
- i) インターフェアを科せられたサーファーには、全て罰則が適用され、その判断は変更することはできない。決定されたインターフェアランス・コールについてはジャッジやツアー・マネジャーであろうとも討議できない。全ての審議はヘッド・ジャッジが状況について討議しても良いと判断した場合のみ行われ、ヘッド・ジャッジと直接に行わなければならない。
- j) 妨害を受けたサーファーは、定められた競技時間内であれば、マキシマム・ウェイブに追加して波に乗る事ができる。
例外：ダブル・インターフェアランスの場合は、両サーファーともエクストラ・ウェイブを受け取ることができない。
- k) エクストラ・ウェイブやヒート時間の順延はヘッド・ジャッジにより決定され、それは水中カメラマンや海上警備隊、その他の外部からの妨害による場合にも適用される。
- l) インターフェアランス・ペナルティーを2回以上科せられたサーファーは直ちにコンペティション・エリアから立ち去らなければならない。これを守らない場合は罰金が科せられる。

3. コンペティション・ルール

・ ヒート時間

- a) 一度ヒートが開始された後はどのような事情があろうともそのヒート時間を延長することはない。ヒートが何らかの理由で妨害された場合には、ヘッドジャッジによりそのヒートは中断され、その後サーファーがすべてできる限りそれまで居たポジションに近い状態でヒートは再開され、元来定められている制限時間の残りで続行される。もしもプライオリティーのある場合、優先権は中止されたときの状態に戻る。
例外：ヘッドジャッジが適任者らと話し合い、ヒートが中断された時点でどの選手も優位についておらず、また後の状況が最初に行われたヒートと同基準でジャッジすることが困難だと判断できる場合には、そのヒートは新たに行われる。同

様にヒートがスタートしてから 10 分が経過した時点でサーファーが誰も波に乗っていない場合は、ヒートはキャンセルされ、そしてリスタートされる。

- b) もしもビーチマーシャルが選手に対して間違ったヒート時間を伝えてしまった場合には次のように行う。
 - 1) 伝えられたヒート時間よりも実際のヒート時間が短い場合は、後で残りの時間分をリスタートする。すべてのサーファーは沖のラインナップ・ポジションよりスタートする。
 - 2) 伝えられたヒート時間よりも実際のヒート時間が長い場合はジャッジパネルにより実際のタイムで計測する。

・ プロテスト

ヘッドジャッジに対する異議申し立ての方法

- 1) ビーチマーシャルよりプロテストシートを受け取り書き入れる。
- 2) 書き込んだ書類をビーチマーシャルに渡す。
- 3) ビーチマーシャルはそれをヘッドジャッジに渡し、ヘッドジャッジはサーファーに対してその日の終わりに 30 分を限度に話をする。
- 4) 大会会場以外でのプロテストは行えない。
- 5) 18 歳未満の選手は保護者立ち会いのもとプロテストを受けられるが、ヘッドジャッジとの話し合いは当事者のみができる。

・ アナウンス

- a) コメンテーターによりアナウンスされた得点がジャッジの入力ミスによる間違ったスコアであった場合、サーファーは異議を申し立てることはできない。
- b) サーファーはヒート中に水の中から情報が必要な場合、次にあげるハンド・サインを使用する。
 - 1) タイムコール: 片方の手首に、もう片方の手で触れて頭の上にかざす
 - 2) ポイント、シチュエーションコール: 片腕を頭の上に挙げてアピールする
 - 3) プライオリティコール: 両腕を頭の上に挙げてアピールする
 - 4) ウェイブカウント: 片腕を水の方に水平に出す

・ ダブルバンク

- a) コンディションなどの理由で、大会中どうしてもダブルバンクを使用しなくてはならなくなった場合、コンテスト・ディレクターはヘッドジャッジ、サーファー代表と協議して決定しなくてはならない。
- b) ダブルバンクでは、2バンクの間に十分なノー・コンペティション・エリアを持たなくてはならない。

- c) ダブルバンクの場合、ヘッドジャッジは3ジャッジパネル・フォーマット(全てのジャッジの得点により採点される)を使用することができる。

- ・ **薬物検査**

- a) JPSPAが主催・公認する大会において、参加する選手全員が対象となる。
- b) コンテストディレクターの指示に従い薬物検査を受ける。
- c) 薬物検査を如何なる理由でも拒否した場合、理事会にて処罰罰則が科せられる。

- ・ **ランキング計算について**

- a) 2019年ツアー戦のランキング計算
xショートボード
4戦中4戦 5戦中4戦 6戦中5戦 7戦中6戦 8戦中7戦
ロングボード
4戦中3戦 5戦中4戦 6戦中5戦 7戦中6戦
のトータルポイントとする。
- b) a) のランキング計算は毎年見直しをJPSPA理事会で行うものとする。

- ・ **大会エントリーについて**

- a) 公認プロの再登録は未更新年度から4年間有効とする。それ以降の大会エントリーはプロトリアルからとなる。
また、有効期間中はプロトリアルからの出場は不可。
- b) グランドチャンピオンは永久公認資格を保有、年間登録費を納め、所定の手続きを行えばその年のツアー戦へエントリーが可能。
- c) 大会エントリー締切後からヒートUPまでのレイトエントリーは、枠が空いていればエントリー可能とするが、ランキングなしR1からの出場となる。

- ・ **大会エントリーのキャンセルについて**

- a) エントリー締前のキャンセルの場合、エントリー費における返金振込手数料は選手負担とし他返金する
- b) エントリー締後のキャンセルは如何なる理由においても、エントリー費におけるキャンセル料(事務手数料)を徴収する。

試合開始1週間前まで	10%のキャンセル料徴収
試合開始1週間以内	30%のキャンセル料徴収
試合開始前日及び当日(大会スタート前)	50%のキャンセル料徴収
大会スタート後	100%のキャンセル料徴収

・ その他

- a) 選手はゼッケンを着用しなければならない。ゼッケンはスポンサーより提供され、ビーチ・マーシャルから受け取り返却するまで、または必要であれば表彰式終了時までのあいだ着用する。違反した場合は罰金が科せられる。
- b) ビーチ・キャディー(サーファー1 人に対し最高 1 人)はウォーター・キャディーがいない時には、サーフボードが紛失または破損した場合に限り海に入る事が許される。もしキャディーが波に乗った場合には、サーフボードを持ってきてもらった選手に対し各波につき罰金が科せられ、他の選手を何らかの形で妨害した場合には、ジャッジ・パネルの見解により、サーフボードを持ってきてもらった選手に妨害が科せられる。ウォーター・キャディーは、ビーチマーシャルにてチェックイン後、ヘッド・ジャッジとコンテスト・ディレクターが必要と見なした場合にのみ競技区域内に入ることが許される。キャディーに対してはその彼らがキャディーしている選手らと同じルールが適用される。ビーチ・マーシャルエリアで大会から提供されるカラー・ベストを着用しなくてはならない。
- c) ヒートの最中とヒート終了時にそのライディングの得点を得るためにはサーファーははっきりとサーフボードの上に立ち上がり、手はルールから離れていなければならない。
- d) 試合開始5分前にそのヒートに出ない選手はコンペティション・エリアから離れなくてはならないというアナウンスをされる。1分前には再度注意され、もしもその時点でパドリングをはじめようと努力をしていない選手には罰金が課せられる。
- e) 「プロ合格基準」

ショートボード

- 1) プロトライアルの予選ラウンドを勝ち上がり、さらにプロ本戦の規定ラウンドまで勝ち上がった選手。
- 2) ベスト2ウェイブの得点が12ポイント以上スコアした選手。
- 3) その他、前年度理事会にて決定され、登録用紙に記載された条件を満たした選手。

ロングボード

- 1) プロトライアルの予選ラウンドを勝ち上がり、さらにプロ本戦の規定ラウンドまで勝ち上がった選手。
- 2) ベスト2ウェイブの得点が12ポイント以上スコアした選手。
- 3) その他、前年度理事会にて決定され、登録用紙に記載された条件を満たした選手。

合格基準の見直しは毎年理事会で行うものとする。

※ このルール・ブックは WSL RULE BOOK 2016 年版を抜粋して日本語に訳したものです。JPSA の試合運営上で不足している部分があった場合はオリジナルの WSL RULE BOOK を参照します。

規律規定

以下に規律に関するペナルティーを定める。

項目	内容	ペナルティー
1	ジャッジに対する暴行	罰金 50 万円／活動停止処分
2	ジャッジに対する不作法な身振り	罰金 10 万円
3	ジャッジに対する大声での罵り	罰金 10 万円
4	ジャッジ用紙を引き裂く	罰金 10 万円
5	ジャッジ用紙に書き加えを行う	罰金 10 万円
6	関係者席での大声での罵り	罰金 10 万円
7	大会スタッフに対する暴行	罰金 50 万円／活動停止処分
8	大会スタッフに対する罵り	罰金 10 万円
9	大会開催地・競技地域内の備品悪用	罰金 10 万円
10	大会所有物の破損	罰金 10 万円＋実費
11	大会開催地内の器物破損	罰金 10 万円＋実費／活動停止処分
12	ヒート中の暴力行為、破壊行為、威嚇や侮辱行為などにより競技進行を妨げた場合	罰金 10～50 万円／活動停止処分
13	大会期間中、暴力行為、破壊行為、威嚇や侮辱行為などによるサーフィンイメージの損害	当事者による専門機関を通じた事実確認が取れ次第、当連盟審査会で処分を科す 罰金 10～50 万円／活動停止処分
14	故意によるゼッケンの規定外着用	罰金 5 万円
15	ゼッケン不着用	罰金 10 万円
16	ヒート中の競技エリア内でのフリーサーフィン	罰金 10 万円
17	スポンサー、およびメディア関係者に対する暴行	罰金 50 万円／活動停止処分
18	参加すべき表彰式の欠席	罰金 10 万円／賞金没収／ポイント無し
19	参加すべき招集の欠席	罰金 10 万円
20	マキシマムウェイブのオーバーライディング	罰金 5 万円(1 本につき)
21	大会期間中、フリーサーフィンでのリーシュコード不着用	厳重注意

《WSL RULE》

● Priority (優先権) プライオリティー

The surfer with priority has the unconditional right of way to catch any wave they choose.

優先権を持ったサーファーは、自分が選択しようとするすべての波を得る方法であり無条件でその権利を有することとする。

Other surfers in the heat can paddle for, and catch, the same wave, but only if they do not hinder the scoring potential of a surfer with priority.

同じヒートの他のサーファーらは、プライオリティーを持っているサーファーの得点稼ぐ可能性を妨げない場合にのみ、同じヒートの他のサーファー達はパドル、および、同じ波をキャッチすることができる。

A surfer loses priority once they catch a wave and/or a surfer paddles for but misses a wave.

そのプライオリティーを持ったサーファーは一度波に乗るまたは、乗る姿勢を取ってパドルして失敗した場合でもプライオリティーを失う。

If two or more surfers catch a wave, the first surfer to make it to the take-off zone will get priority.

もし、2名以上のサーファーが波を捉えた場合、先にテイクオフゾーンに戻ったサーファーがプライオリティーを得る事となる。

Article 152: Priority 第 152 条 : プライオリティー

General Priority 一般的なプライオリティー

152.01 Priority to any waves being ridden, all non-priority rules apply.

第 152 条 1 項 : 通常はすべての非優先のルールが適用され、ライディングされます

152.02 The Priority Judge will make any call on Priority using a coloured display system corresponding to the Surfer's competition jersey colours in the water to indicate priority and may consult the judging panel for close calls.

優先順位使用して

第 152 条 2 項：プライオリティージャッジは、プライオリティが施行されている際にサーファーが着用している競争ジャージに対応したカラー表示システムを使って海の中にいるサーファーに優先順位を示すため、及び判定を協議して伝える。

152.03 Subject to 152.04, wave priority is lost as soon as a Surfer Rides a wave or makes a committed paddle to catch and misses a wave.

第 152 条 3 項：152 条 4 項に従い、波に乗る、またはテイクオフに備えてコミットしたパドルをして失敗した場合直ぐに持っている優先権を失う。

152.04 In 3-Surfer or 4-Surfer heats, if a Surfer makes a committed paddle to catch the same wave as Surfer with higher priority , they then risk losing their priority at the discretion of the Priority Judge.

第 152 条 4 項：3 人又は 4 人サーファーのヒートの場合、彼らが高い優先順位を持っているサーファーとパドルを競り合った時にプライオリティージャッジの判断で権利を失うリスクを生じる。

152.05 Under priority allocation it is the Surfers' responsibility to continually check the priority system for verification.

第 152 条 5 項：プライオリティールールが施行されている状況下では、サーファー自身が責任を背負ってシステムの表示および状況を検証および確認する義務。

152.06 If a Surfer inside has second or third priority and their opponent paddles for, but misses a wave, the inside Surfer automatically assumes the higher priority. Therefore , if they also paddle for, but miss the wave, then they have also lost priority. That is, both Surfers have then lost priority even though only one wave has passed and there was not sufficient time to change the priority.

第 152 条 6 項：インサイドにいる 2 番目または 3 番目のプライオリティを持っているサーファーが波を追いかけてパドルした際に失敗した場合、自動的にその順位が入れ替わる。それに従ってパドルをしたサーファーは優先順位を失うことになる。したがって、双方のサーファーは 1 本の波を逃したにもかかわらず優先権を失うことになる。優先順位を入れ替える時間がない場合はお互いに権利を失うこととなる

152.07 The Priority Surfer will lose priority if in the opinion of the

Head Judge or Priority Judge they

第 152 条 7 項：プライオリティーを持ったサーファーは、ヘッドジャッジとプライオリテ
ィージャッジの見解によって優先権を失うことがありうる。

(a) Paddle in front of the non-Priority Surfer to deliberately
impede them from catching a wave.

(a) 意図的に一番目のプライオリティーサーファーの前にパドルして
波をキャッチする行為をして妨げた場合。

(b) Position themselves in the take off zone to prevent
another Surfer from catching a wave.

(b) テイクオフゾーンで他のサーファーが波を捉える行為妨害する位置にいることを防ぐ。

(c) Use their priority by either paddling for or taking off on a
wave to block their opponent when the Surfer with priority
appears to have had no intention to score .

In this situation priority can be awarded regardless of which Surfer reaches
the take-off zone first after the Ride.

(C) この優先権を利用してパドリングまたはテイクオフのどちらかをして相手の選手に意
図的に仕掛けたことが見られた場合。このような状況での優先権は、ライディング後
にテイクオフゾーンに到達したサーファーが最初に得ることが出来る。

152.08 If Surfer with superior priority paddles outside the Primary
Take-off Zone and sits on inside position, they will have their Priority
suspended until he re-enter the Primary Take-off Zone.

If the Surfer does not re enter the Primary take-off Zone, they will no longer be the
Priority Surfer.

The Priority Judge will determine the Surfer's new priority position in the heat.

All attempts will be made to verbally announce the Priority Surfer as they start to leave
the Primary Take-off Zone by a verbal warning via the PA system.

Events to provide a microphone for the PA to the Priority Judge for this purpose that is
able to override the beach announcers, to relay Priority decisions like this although
Surfers should not rely on the same and rather always rely on the same and rather
always rely on the Priority Disc for the Event.

第 152 条 8 項：もし、最も高い優先権を持ったサーファーがテイクオフゾーンより外れた
沖のポジションまたは、インサイドに位置した場合、もとのテイクオフゾーンに戻った時に
効力を取り戻す。

もし、このサーファーがプライマリテイクオフゾーンに再び戻らない場合は、彼らその優先

権を失うことになる。

プライオリティージャッジはヒート中に常に変動するサーファーの新しい優先権の位置を決定する。

すべての進行は、PA システムを使った口頭でアナウンスされる警告によってサーファーに伝えられ、それによって彼らはテイクオフゾーンから離散らばる。

イベントは PA システムにプライオリティージャッジ用のマイクロホンを用意して、ビーチアナウンサーにその詳細を伝えるように設備を整えることによって、サーファーは常にパネルシステムの優先ディスクに依存しがちになるところを、これに依存しないように中継で常にこの現状を告知することが求められる。

152.09 Priority interference may be called individually by the Head Judge only if the majority of the judging panel do not see the incident.

第 152 条 9 項：この優先順位が不明確に表示されない場合は、ヘッドジャッジが他のパネルジャッジの過半数に満たない意見を統一して個々にコールすることが許される。

152.10 In all cases where a dispute results from a malfunction of the priority system, the WSL Commissioner's office (CT Events)/WSL Tour Representative (non-CT Events) will consult with the WSL Head Judge and Surfing Director to determine a resolution which may include a re-surf.

第 152 条 10 項：すべての場合において、優先権が原因で生じた誤りによる問題は WSL のコミショナーオフィス (CT イベント) / WSL ツアーの選手代表的 (CT イベント外) と WSL のヘッドジャッジ、コンテストディレクターの間で協議することによって再審をする事も示唆する。

152.11 Allocation is based on who the Priority Judge believes has reached the primary take off zone first. In cases where Surfers appear to reach the line-up at the same time, priority will go to the Surfer who did not have the last priority.

第 152 条 11 項：プライオリティージャッジの権限の基本は、テイクオフゾーンのエリア内での出来事が最優先される。サーファーたちが同時にラインアップに到達するように見える場合には、そこにいたるまでに最後の優先順位を持っていなかったサーファーに分け与えられる。

152.12 Once a heat has ended all priority ceases. If a surfer is riding on a wave as the heat ends they can't be interfered with by any surfer (even if that Surfer had higher priority before the heat ended). If an interference occurs the violating Surfer will receive

a priority situation interference.

第 152 条 12 項：ヒートが終了した時点ですべての優先権が消滅する。

もし、1 人のサーファーがヒートの終了間際にライディングをしている場合、

他のサーファーによってそのライディングを干渉することはできない。

(もし、そのサーファーが最高優先順位を持っていてもヒートが終了する前でも)

もし、そこに妨害が生じてその違反を犯したサーファーにプライオリティールールのインターフェアレンスが科せられる。

152.13 When there is PWC assistance the allocation of Priority when two riders are being transported at the same time will be decided by the Priority Judge after taking into account both pick-ups and drop-offs. PWCs cannot overtake each other at anytime when returning a Surfer to the line-up.

第 152 条 13 項：ジェットスキーパオロットがアシストして、2 人のライダーが同時に沖に運ばれた場合、どちらのサーファーが先に引き上げられて、沖に到達したかをプライオリティージャッジの判断によって決定される。

152.14 If the Head Judge or Priority Judge determines that priority is affected by either the PWC pilots capacity or mechanical problems in a certain situation, priority will be allocated as the Head Judge or Priority Judge deems fit.

第 152 条 14 項：もし、ヘッドジャッジまたは、プライオリティージャッジの判断で、ジェットスキーの故障や、操縦ミスで何らかの不具合な影響を生じた場合は、ヘッドジャッジとプライオリティージャッジの決定をうながす。

152.15 If PWC assistance is used by any Surfer with priority they automatically lose the priority.

第 152 条 15 項：すべてのサーファーは、ジェットスキーによるアシストを受けて沖に運ばれた場合は自動的に優先権を失いニュートラルに帰する。

152.16 When a surfer rides a wave priority heat start, the Surfer takes the lowest priority position in their heat once it has begun and retains it after any restart under Article 125.

第 152 条 16 項：サーファーが優先権がない時点で波に乗った場合は、第 125 条の基そのサーファーはライディング後に一番低い優先権のポジションにもどって再スタートする。

152.17 If a Surfer's surfboard is damaged:

- (a) and is no longer "surfable" (in the discretion of the Priority Judge) during a heat, the Surfer's priority is suspended; and
- (b) the Surfer's priority position (1st, 2nd ect) they had prior to them replacing their surfboard can be reinstated once they replace their surfboard and return to the Primart Take-off Zone.

第 152 条 16 項：もし、サーファーのサーフボードが破損した場合

- (a) そして、すでに波に乗れない状態なとき、(プライオリティージャッジの判断で) その優先権の順位は中断される。
- (b) サーファーの優先順位の位置は (1 番、2 番など) そのサーフボードを交換して元の位置にもどり、テイクオフゾーンに復帰した時点で回復する。